

# 町家型集合住宅

川島悠都、河形信和、横村友哉、齋藤寛彰、石神絵里奈

## 現状

### 良いところ

- ・昔の町並みが所々残っている
- ・街区内部の庭の空間
- ・「間」の通りからの背割の眺め

### 課題

- ・町家の住環境の悪化（日当たり、老朽化）
- ・中心市街地の空洞化  
駐車場や空き地が多い
- ・背割空間が未利用
- ・進む高齢化  
雪下ろしなど若者がいると安心



街区内の緑地を表した図。

街区内の自然環境を活かしていくことで、居住者と旅行者の双方にとって、より望ましい環境を創出のではないかと。

## 提案

「若者が住みたいと思える町家を！」

豊かな外部空間をもち、ゆったりとまちなかで生活することができる住宅

背割コミュニティを使った新しいライフスタイルが生まれる場

商業の活性化と若者による、中心部にぎわいの創出

## コンセプト

“オモテ”と“ウラ”の空間のギャップ

町家の雰囲気は残しつつ、街区の奥に豊かな生活風景が垣間見え、通りに生活の気配を感じさせる。

“オモテ” → 通りの軸線を通した歴史的な街並の表通り

“ウラ” → 背割沿いに行われる住民同士のコミュニティ  
広がりのある空間

## 計画対象地



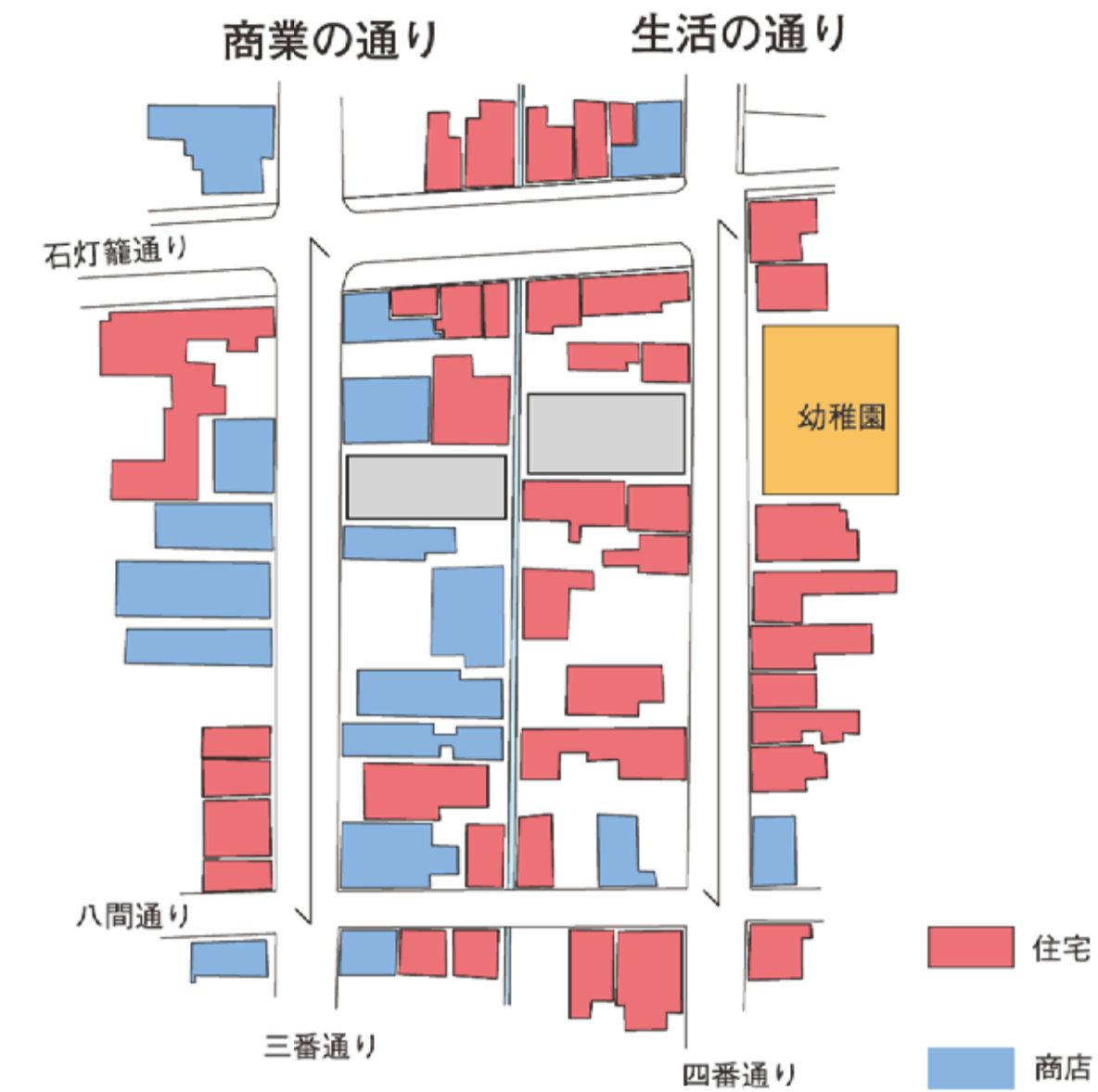
## 敷地

石灯笼通りに面し、三番通りと四番外通りに挟まれた一街区から敷地を選定した。この街区は観光と商業、生活の性格の異なる3つの街道に面している。石灯笼通りから、背割りの奥を覗き込めば、街区内の豊かな緑が垣間見え、そこに住む地域住民の生活の雰囲気を感じることが出来る。

石灯笼通り：明治時代の大火の後、延焼防止のため拡幅工事が行われ、石畳の歩道が整備された通りであり、七間通りや寺町通りを巡る観光ルートの一部とされている。

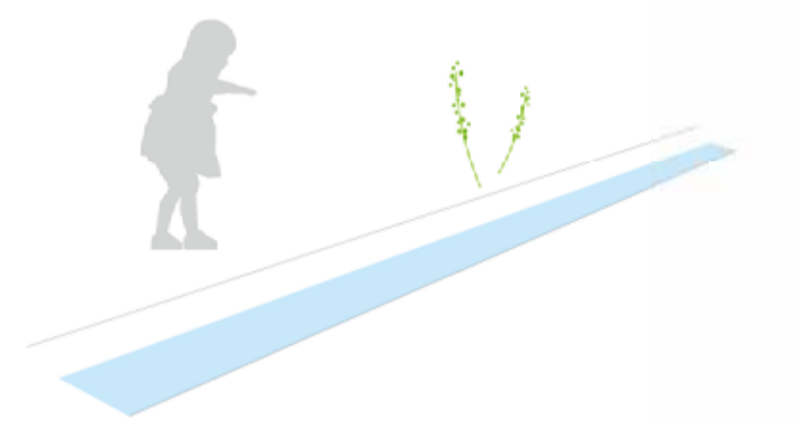
三番通り：その昔、この通りの電車の駅があったことから、大野市民の生活に密着した商店街として栄えた過去があり、現在でも多くの商店がこの通りに面して建てられている。

四番通り：現在幼稚園が立地しており、市民生活の中でも馴染み深い通りとなっている。



## 背割

背割にはあまり手を加えず、昔から継承されている軸線を大事にします。背割が緩やかな境界となり、パブリックな外部空間を引き締める役割を果たす。

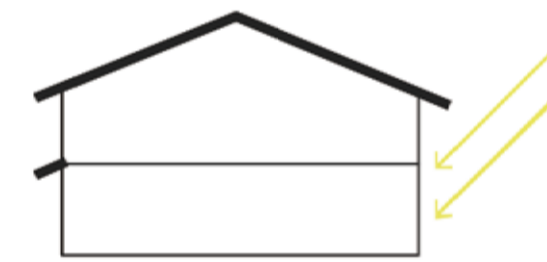


## まちなか居住



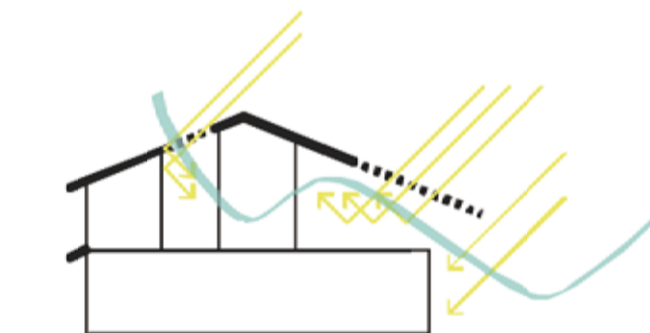
従来の伝統的町家形式

長所：風情のある街並みを構成  
短所：側面に開口がなくて暗い  
風通しが悪い



町家的集合住宅のメリット

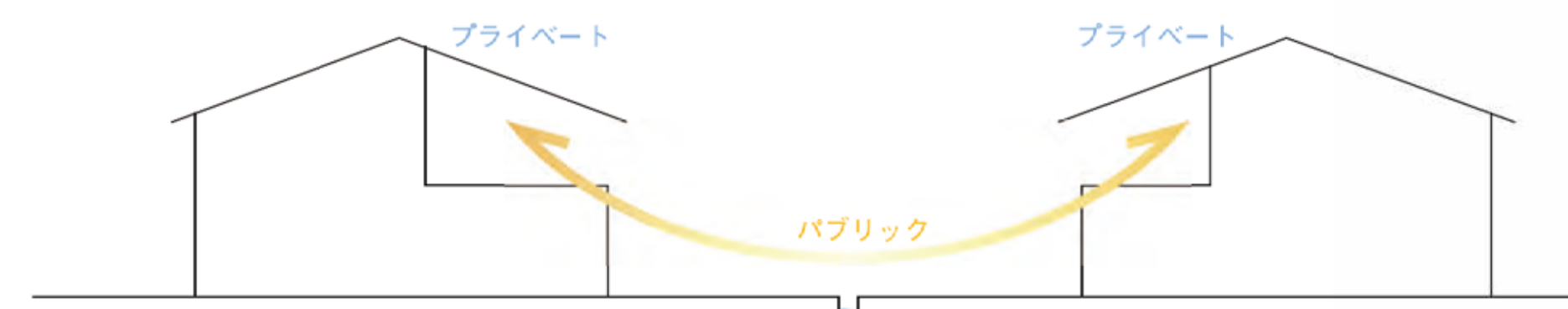
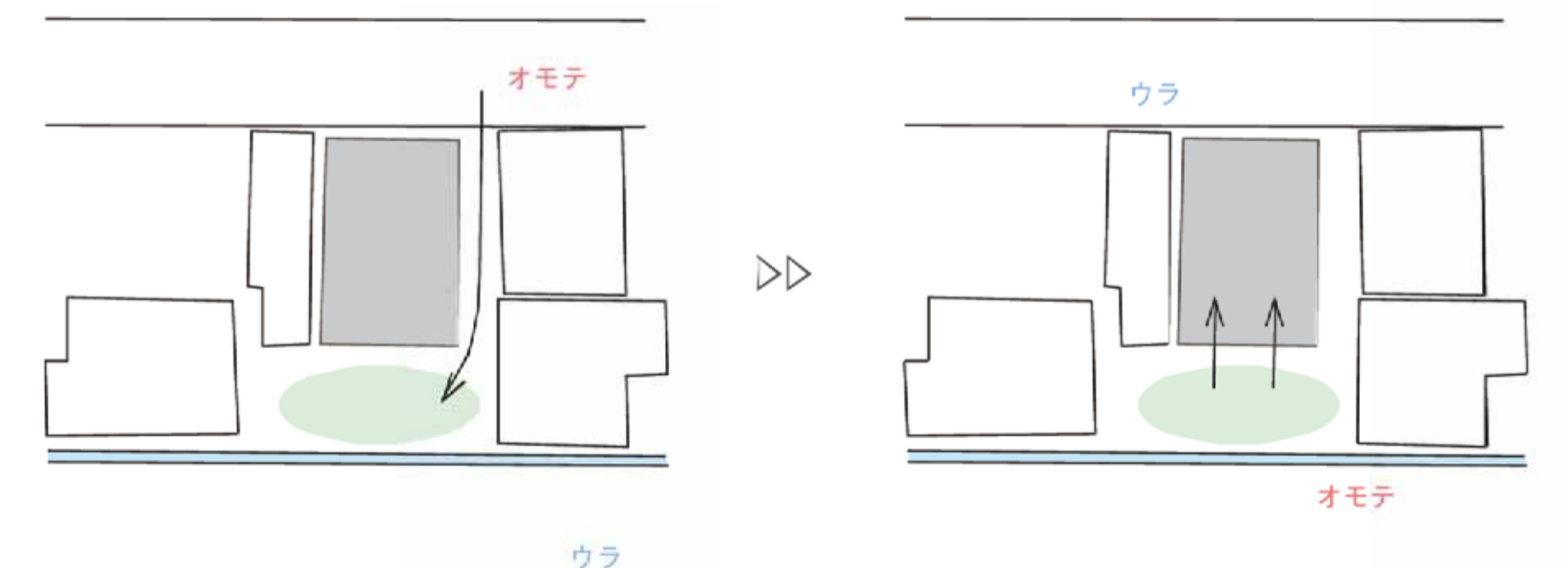
- ・縦横の凹凸によって、建物内に光と風を呼び込む
- ・建物の背後に開放感のある外部空間を獲得する



## ダイアグラム

“オモテ”から共用スペースへと一度引き込み、“ウラ”の共用スペースから各住戸へアクセスする。

→ 本来“ウラ”の空間である背割スペースを“オモテ”として使用することによって、背割をきれいに使うという意識が生まれる。



- 背割 → みんなの庭（パブリックスペース）
- テラス → 個人の庭（プライベートスペース）